

## 平成23年度 第6回 府中市文化財保護報告会議事録

**日時** 平成24年3月29日（木）午前10時

**場所** ふるさと府中歴史館3階会議室

**出席者** 田中会長、小澤委員、坂詰委員、長沢委員、中村委員、馬場委員、福島委員以上7名

**事務局** 斎田文化スポーツ部長、英課長、江口課長補佐、塚原調査係長、庄司郷土資料担当主査、荻野事務職員

**傍聴者** 1名

### 1 報告事項

**会長** それでは報告事項（1）について、事務局の説明求めます。

#### 報告事項（1）市指定文化財八雲神社脇の元応の板碑の移設に伴う調査報告について

**事務局** 資料をめぐっていただいて、最初の方、こちらは現地の平面図です。右側が北で、下の方が現在の分梅通り（陣街道）になります。

先日見ていただいた後、掘り下げを行い、全面に河原石が広がって出てきました。

前にあった板碑と、木の図は黒い点線で示しております。斜線で示しているのが板碑の本体で、その周りが木になります。

木の方は、この石の上に乗っかるような形で、根は下に入らず横に伸びている状態でした。

おそらく、前回見ていただいた古い写真にあるように、元々は平場の所に木が立っていて、横に根が張っている所を、南側・東側を切通し状に切ったために、根が切れまして、木が枯れてきたのだらうと、推測できます。

木に喰い込んでいた板碑の所は、木の成長の過程で押されて、板碑の脇が崩れて壊されて、折れた状態になっていました。つまり、木に抱かれていた所は細く抉れた状態になっていました。

レプリカを作る際には、その部分を復元しますが。それを現地に置く際は木に抱かれた形になりますので、当初の形で残ります。

木の下からは多数の河原石が約5000点以上ありまして、厚い所で約70cmの厚さがありました。

その石を全部取り上げた後は平場で、板碑は元々大きな石を板碑の基礎部分に使い、その周りに中位の石、仕上げに細かい石という形で石を積んで板碑を

自立させていたと考えられます。

石の間からは、板碑の破片、常滑の甕でおそらく15世紀位の物の破片、上の方からは1文銭とか出てきました。時期的には中世から近世まで石が積まれている状態であったかなと考えています。

現在、石と遺物の洗浄をして、全部を点上げしておりますので、どの層からどういう物が出たのか、最終的に判ります。

それで、板碑が当初からこういう形なのか、何か変更が加わったのかという事を確認していきたいと考えております。

また、今、見えている石の広がり、東西約3m50cm、南北で3mで範囲が限られているので、本来はもっと広い範囲に広がっていたと考えられます。

板碑の集石の周りには溝が確認されていて、断片的なので、実際にどう周っていたのか判らないのですが、溝自体は板碑を避けて通っていますので、板碑が先あって、溝を掘ったと考えられます。

板碑は長さが約2m20cm、最大幅が55cm、重さは240kgを超える非常に大きな板碑で、重いもので、今は分割して保存しています。

2枚目が現地の写真です。上の段が、上空から撮った写真で、左上の穴がありますが、この穴の右脇が板碑のあった場所です。

板碑の下はローム層です。この穴はロームの厚みを測るために掘った穴です。4～50cmの厚さで礫層に到達します。

大きい石が板碑に集中し、その脇に中位の石があります。

下の段は、厚みが見える写真で、河原石や割れているような石が含まれていて、割れている石がどういう理由で割れているのかは、今後、石を見て確認したいです。

現在、ここの部分は擁壁工事が終わり、土層の調査をしている部分が道路になり、新たに擁壁ができます。

以上です。

**会長** 最初に板碑が立てられた時は、周りはこのようになっていたのですか。

**事務局** 板碑の基礎を押さえるように、大きな石で周りを囲いまして、固定し、その間にまた、中位の石を積んで、石だけで自立させています。そういう構造です。

**会長** 土はなくて石ですか。

**事務局** 隙間に土はありますが、基本的には石で保たせています。

会長 木は、自然に生えていたのですか。

事務局 根の様子からすると、石の上から生えていました。

福嶋委員 この木は500年は経っていません。100年経たない位でしょうから、たまたま飛び込んだのでしょう。

会長 石が沈んでいって、土が溜まり、そこに種子が落ちて生えてきたということですね。

福嶋委員 セットになっていた方が感じは良かったですね。

会長 根は板碑の前の方に伸びていたのですか？

事務局 そうです、図面の真ん中にある丸いのが木の幹の部分で、外側が根です。主な根は板碑の前の方に伸びていました。

ちなみに、木の方は上手く取り外しできましたので、分割ではなく、抱きかかえている部分を少し削りましたが、本体はそのまま整理事務所に保管してあります。また、何かの機会に色々調べたいと考えています。

事務局 根は現在はかなり良い状況に乾燥していますので、湿らないように防水シートを掛けて保管しています。将来的には残す方向も考えていきたいです。

福嶋委員 セットで残すのなら、腐朽しないような処理は必要です。

事務局 分かりました。

馬場委員 木はいつぐらいの物ですか。

福嶋委員 100年は経っていないと思います。大正か、昭和ぐらいかと

馬場委員 昭和の初めの写真でかなり巻き込み掛かっているのがあります。

福嶋委員 そうなると、もっと古い時代で、100年ぐらいかと

事務局 昭和10年の写真では上まで木が伸びています。その時は少し巻き込

んでいます。

**福島委員** そうなると、もっと古いですね。でも200年は経っていないでしょう。

**馬場委員** 塚状になっているということですか。

**事務局** 石の上に、昭和10年の写真や、前回の資料に入れました甲野先生の昭和30年代の写真で行くと、そんなに盛り上がっているものではありません。平たいイメージに見えます。

**会長** レプリカとなると元のイメージとは違ってしまうのですか？

**事務局** レプリカは本来あった木に近い物を再現しております。ただし上が切れている状態にはなります。前にあった状況となるべく変化が無いような仕上がりにしてもらうようにしています。

**会長** それでは報告事項（2）について、事務局の説明求めます。

## **報告事項（2）国司館と家康御殿整備活用検討懇談会の提言について**

**事務局** 本懇談会は本年度、地元市民の皆様主体で国司館と家康御殿があります武蔵国府跡御殿地地区の今後の整備・活用について検討していただく会です。本年度12月16日に第1回を開催し、2月22日に第2回を開催させていただきました。

活発なご意見をいただいております、『国史跡武蔵府中国府跡御殿地地区の整備活用についての提言書』ということで取り纏めをいただいております。

ご議論の中では、特に国史跡としての本質的価値を保存して、明らかにしていくことと、府中本町駅前という場所ですから、地域の拠点としてのにぎわいと魅力のある整備をすべきだというご意見が多く出ています。

今後については、この懇談会のご意見を来年度（平成24年度）に保存整備基本計画の策定協議会を立ち上げる予定ですので、今回の懇談会のご意見を市民の強いご要望として協議会の方へあげさせていただきます。平成24年度中に基本的な考え方を取り纏めていきたいと考えております。

以上です。

**会長** 南側マンションと一体となった計画については。

**事務局** それは、あくまで別の計画です。南側のマンションは、現在、建築工事が進んでおりまして、南西側の公開空地に至る仮設通路の設置工事が始まっております。

**会長** そちらが先に出来てしまう可能性はあるのですか。

**事務局** 間違いなく、マンションの方が先に出来ます。

**坂詰委員** 協議会の方で取り纏めているということで、改めてお話があると思います。例えば、今お話にあった駅前開発の問題が出ていると、それはあくまで調査の議論を踏まえての活用なのか、あるいは、それはともかくとして、活用したいという意見なのか。どちらですか。

**事務局** 事務局としては、国史跡として史跡の保存を大前提としながらの整備・活用というお話をさせていただいておりますので、その歴史的価値を踏まえた上での駅前のにぎわいと魅力の空間ということで検討させていただいております。

**坂詰委員** 国の史跡指定の理由からすると、ここはやがて国司の館がメインだと考えられて来るのです。それと平面的に重複しないように建設されていた、いわゆる家康の館が付設してある。そちらの方は国史跡に入っていない訳ですね。

そうすると、中心的に市の方で保存・活用するというのは古代の方を中心に行うということですね。そうでないと指定した意味がありませんから。

そうすれば自ずから、駅前開発といいましょうか、地元のお客さんのご意見というのは、家康屋敷の空間を活用することになりますね。

その場合にも是非、他の地域で出てきている家康の館と違うと思うので、その性格が判るような形で保存しなければならないという点を特に注意していただければと思います。

そうでないと、例えば、他の家康関係の館には色々な意見がありますよね。それらと違うと思います。計画的に家康の意向を反映させた家光の代で整備された遺構ではないと思います。

ですから、そういう点を考慮して、広い空間を全部残してしまうというよりも、特性を活かして活用する方向性を是非考えていただきたいということです。

**会長** 国の史跡に指定された条件というのは、国司の館の方が中心ですね。

**坂詰委員** 国司の館の方を指定された理由として保存するというのは大前提で、活用として家康の御殿を使う、重複しないで存在したということに意味があると思います。

家康の遺構・遺物の方も当然残すべきだと思うけれども、特性を活かしたような保存というのを上手にやっていただくということが必要だと思います。

**小澤委員** 国の史跡指定地は全域ではなかったのですか。

**事務局** 史跡指定地は全域です。

**小澤委員** 史跡自体は全域、指定の主旨が古代国府のことですか。家康の御殿の方も指定域、ここを活用してこの上に何か作ろうということですか。

**事務局** はい、具体的な建物その他という所はこれからですが、是非そこに賑わいを作って欲しいというご要望をいただいています。

**福嶋委員** 賑わいとはどのようなイメージをしたら良いのでしょうか。建物とかでしょうか。

**事務局** 地元のご意見としては、やはり「御殿地」という地名が残ってきた本町ですので、ここで何か定期的なイベントをやるとか、例えば市民朝市みたいなものをやるとか、そういう多目的な広場と、家康御殿を強力に市内外にPRできるような形で集客してもらえらるようなご意見が特に多く出ております。

**会長** ずっと地名でも残っていて、どこに御殿があるのだろーと言われて来たので、活用するとなるとそっちの方のイメージが強いかもしれないね。

地元の人中心でやるのも良いが、ある程度指導的な立場できちんと歴史的な保存・活用を行政の方できちんと指導してほしい。

もしかしたら、アマチュアの意見を強く反映しすぎると、せつかくの契機が台無しになってしまうかもしれないので。

次の懇談会はいつ開催しますか。

**事務局** 懇談会は本年度のみです。今月中に取りまとめになります。その結果を来年度の計画策定協議会に反映させるということです。

会長 それでは報告事項（３）について、事務局の説明求めます。

### 報告事項（３）平成２３年度文化財保存活用事業報告及び平成２４年度文化財保存活用事業計画(案)について

事務局 平成２３年度のご報告ですが、本審議会は６回開催させていただきました、その審議会以外の会議もケヤキ並木の保護ですとか民俗資料の調査等で先生方にはお世話になりました。ありがとうございました。

平成２３年度、まず、ふるさと府中歴史館が４月に開館させていただきました、国史跡武蔵国府跡の解説施設として多くの来館者がございました。２月末現在で約５万人弱の来館者がございましたので、ふるさと府中の歴史を含めて、多くの方から良い施設だという評価を頂いております。

２番目としては、今ご報告させていただきました、国史跡武蔵国府跡の御殿地地区の保存活用事業ということで、年度当初に庁内の検討会議を立ち上げまして、下半期からは市民の懇談会を設置させていただきました、具体的な保存整備の計画に向けた取り組みが始まったところでございます。

続きまして、武蔵府中熊野神社古墳の保存・整備事業でございますが、平成２３年度は第４期目の国の補助事業として展示館周辺の整備工事が先般ご視察いただきました古墳の実物大の石室模型を設置させていただきました、こちらも市内外から多くの来館者をいただいています。こちらも本年２月末現在、展示館自体は昨年９月に開館ですので、約６か月間で約６千人の来館者を頂いています。

また、活用につきましては、地元の古墳保存会の皆様にご協力いただきまして、実際に見学者の対応は保存会の方で行っていただいています。

４つ目としましては、国天然記念物馬場大門のケヤキ並木保護対策事業でございます。継続して行っておりまして、特に２３年度はご指導いただきながら、危険木の対策、古木の保護、定期的なモニタリング調査を行わせていただいています。

その他の活用事業として、白糸台掩体壕につきましては、後ほどご視察いただきますので、その時にご報告させていただきます。

その他、武蔵府中ふるさと祭りを１０月９日に開催させていただきました、御殿地地区の鷹狩り実演会など多くのご来場者を頂きまして、継続的にふるさと府中の文化財の活用という意味では大事なイベントとして定着しつつあるところでございます。

平成２３年度のご報告は以上です。

平成２４年度文化財保存活用事業計画(案)は、まず文化財保護審議会は昨年と同様に年６回開催を予定しています。審議会開催を行うのは引き続き案件があ

りました段階でご指導いただきたいと存じます。

ふるさと府中歴史館は、来年度につきまして更なる入館者増を図るということで、事務体制も来年度見直しを行っております、1階、2階共に展示替え、また、連載講座や、4月中旬から5月初旬に掛けてはくらやみ祭の歴史特別展ということで、この部屋でくらやみ祭の特別展を開催するなどより一層の来館者を呼び込む催しをしていきたいと存じます。

続きまして、国史跡武蔵国府跡御殿地地区の保存活用でございますが、来年度史跡整備関係の専門の方を加えて観光的活用または地元市民ということで協議会を立ち上げていきたいと考えています。

具体的な開催内容、メンバー、等々については今後、柔軟に市民の皆様のご意見を伺いながら進めていきたいと思っております。

ケヤキ並木の保護対策事業でございますが、こちらにつきましても、継続的な調査をモニタリングと共に、以前から懸案となっております保存木の保護、また補植につきましても平成24年度は適切に行っていきたいと思っております。

また、24年度につきましては、これまで懸案となっていた各種文化財の指定のあり方のような考え方を是非本審議会でお考えを伺って行きながら、新しく市指定の案件等も以前から課題となっておりますので、是非様々な種類の文化財の保存・活用についても24年度は積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

**会長** 来年度について何か情報があつたらお聞きしたいです。今年は何箇所か整備があつたけど、来年は特に整備は無いようですね。

**事務局** はい、ございません。

**会長** 整備が終わったので、今度は活用ということに重点が置かれるということですね。

**長沢委員** ケヤキ並木の石垣を低くする工事は、あの部分で終わりですか、全面的にやらないのですか。

**事務局** はい、その件につきましては、今回のところは試行ということで、今後、市民の皆様のご意見を伺って、それをそのまま広げていくのか検討して参りたいと考えております。

会長 ケヤキが何本か枯れたみたいですね。そういうのは無いですか。

事務局 枯れた所は伐採を行わせていただきました。

会長 あれはかなり減りましたよね。この数年で。

福島委員 ケヤキ自体の木の管理も含めて30年とか50年の後を見据えた対応を考えていかないと。一応計画書はできてますよね。それを着実に実行していったという形になるのではと思います。

1個1個の木のその所をチェックしながらというのは必要だと思いますがね。計画の段階と変わって来ているから。

馬場委員 石垣を下げた試行とおっしゃっている所は、皆でベンチ代わりに座れるようにということでしたが、見ていると土の面と石垣の面がフラットになっていて、いつも泥だらけになっています。

なかなか女性は座らないかなと感じがしましたね。

福島委員 あれ土盛りしてますからね、相当。

馬場委員 私は、座っているかなと通る度に見ているのですが、ベンチの方にはやはり座っていて、それと、座るにはちょっと低いかなという感じがします。

福島委員 踏み込みとかはどうですか。低くなって人が入り易くなったとか。

事務局 ごみ捨ては減っております。ヘデラに覆われている場所に比べると綺麗な状態を保っています。

福島委員 土を嵩上げで盛っている分が石垣に流れている。ヘデラの生える分の土を入れている所があるので、ヘデラを取ったら、その分の土を減らしても影響は無いと思うのです。今後その下を何にするのかによって、土を除去するのかそのままにするのか変わります。

馬場委員 もう10cm石が高くて良いのかなという気がします。

福島委員 擬木みたいな、コンクリートの御影石みたいな物を上に敷くとか。

会長 昔のケヤキ並木を知る者にとっては、今の石垣は違和感があるのですが。

福嶋委員 あの前ヘデラと石垣のことですか。

会長 審議は以上にします。掩体壕の視察はよろしくおねがいします。

次回の開催日程について

次回は平成24年度の府中市文化財保護報告会の第1回です。

日程は、平成24年5月で、11日（金）の午前10時からが第1候補、18日（金）の午前10時からが第2候補、8日（水）の午前10時からが第3候補となりました。

期日が近づきましたら、委員の皆様のご都合を合わせ、実施することといたします。